

光と緑の風通信

発行/2016年3月3日 編集/福島県立医科大学看護学部 〒960-1295 福島市光が丘1番地 Tel.024-547-1111 (代)

卒業生・修了生の皆さんへ・・・

卒業生・修了生へ贈る言葉

看護学部長・看護学研究科長 真壁 玲子



看護学部卒業の皆様、また、修士課程修了の皆様、おめでとうございます。

まず、看護学部を卒業される皆様へ：皆様は、平成24年度からスタートした新カリキュラムによる教育を受けた最初の卒業生、一期生となります。このカリキュラムは、2011年3月11日に発生した東日本大震災とそれに伴う原発事故からの復興、看護職として活躍しう教育をと、検討されたカリキュラムです。4年間の学びを経ていよいよ「質の高い看護」の提供等、看護職として活躍するスタートラインに立ちました。看護学部生としての学びは卒業しますが、看護職としての学びは続きます。この学び続ける姿勢を忘れず看護職としてご活躍ください。

次に、修士課程修了の皆様へ：皆様は、修士課程での2年から4年間の学びを経て看護職としての次のステップのスタートラインに立ちました。看護学研究科もカリキュラムを改訂し学生定員充足の目標を達成したところです。本看護学研究科は、学生定員充足という量的のみならず、質的にも充実しますます発展していくことと思います。看護職のリーダーとして、それぞれの看護専門分野における実践・研究・教育活動等を通し、今まで以上に活躍されることを期待します。

看護学部卒業の皆様も修士課程修了の皆様も、看護職としてのキャリアにおいて、様々なことを体験することと思います。楽しみながら自分の生き方で道を切り拓き、自分なりの道を創ることを祈ります。

健康に留意され、ご活躍ください。

(まかべ れいこ)

和を以て貴しとなす

副看護学部長 太田 操



この言葉は、聖徳太子が制定されたといわれる「憲法十七条」第一条の冒頭に出てきます。また、『礼記』には「礼は之、和を以て貴しと為す」とあります。

簡単にいえば、皆で仲良くしましようという意味に解釈できますが、時に、「カドを立てず表面的な一致を求め」考えに使われたり、あるいは「長いものに巻かれる」的な意味合いに使われることもあります。

しかし、この言葉には、もっと深い意味があると思います。上記の「憲法十七条」第一条には、「・・・協調、親睦の気持ちを持って議論しなさい」という言葉もあります。ただ仲良く、表面的に取り繕うのではなく、お互いに信頼し心から尊重する関係でありなさいということです。

これは、すべての人、すべての物に感謝する心を持つことが大事ということではないでしょうか。それが、自分を生かし、人を生かし、物を生かすことに通じます。偏見をなくし、お互いを認め合う気持ちを持つことが大切です。卒業生の皆様も、これから身を置く環境は、どんなところか分かりませんが、置かれた状況に不満を抱き、不平を言い続けても何の解決にもなりません。ましてや人のあら探しをしても得るものはありません。

感謝する心には、柔軟な思考、柔らかい心があります。そのような心の人は、決して折れない強い力を持っています。どんな困難も乗り越えられる知恵と力の源は、そこにあります。報復ではなく忍耐を必要とする場合もあるかもしれません。二宮尊徳も言っています(育った年代が分かりますね!!)。「打つ心あれば打たる世の中よ 打たぬ心に打たるはなし」。これらは、自分も含めたすべての生き物に対する深い愛です。

これから社会人となり、争いに巻き込まれそうになることもあるでしょう。その時、目先の結果に一喜一憂し惑わされるのではなく、長い目で、本来の自分が目指す目標を思い出し、一步一步それに向かって歩み続ける力が大切です。感謝の心、柔らかな心、そして、ぶれない心を持って歩いて行ってください。

ご卒業おめでとうございます。

(おおた みさお)



在校生の皆さんへ

看護学部4年 小野 綾子

真新しいスーツを着て、慣れないお化粧をして臨んだ入学式から、もう4年も経つことに驚いています。希望とは異なった進学で、浮かない気持ちで始まった大学生活でしたが、今振り返ってみて、この福島医大で学ぶことができてよかったと、心から思います。

同級生には、優秀で努力家な仲間がたくさんいます。先生方は、看護に対してとても熱い思いを抱いていて、看護のすばらしさを伝えてくれます。実習やグループワークの度に、そんな仲間や先生に刺激を受けながら、私自身も

4年間たくさん悩み考えました。その結果、看護についてだけでなく、自分自身について考えを深めたことが多かったように思います。在校生の皆さんの中にも、今の環境が思い通りとは言えない人がいるかもしれません。でも、今あなたの周りにあるものを大切にしてください。そして、今の環境の中でできることを一生懸命やってみてください。新しい発見や学びがたくさんあるはずですよ。良い大学生活になることを祈っています。

(おのあやこ)

卒業生から

在校生へ



看護師としての道へ

大学院看護学研究科2年 鹿又 裕子

看護師である自分にとって、影響力のある先輩、後輩に囲まれながら経験を積むことに「自分は何んな看護ができるのか?」と疑問にぶち当たった時、ある研究者に出会い、目の前にある問題や、より良い看護を提供するためには知識が必要であることに気付かされました。大学へ編入後、長期履修生として大学院へ入学しました。大学院での学びの中でも修士論文作成を通して、自分の弱さ、思考過程の柔軟性の無さ、他者へ丁寧にして確実に伝える難しさなどを実感する日々でした。ここまでしか自分にはできない悔しさ……。修士論文作成を終えた

後もしばらく放心状態だったように思います。自分自身の課題や看護における課題が明確に見えてきたのは学位を頂いてからでしたが、大学院での学びは、揺るぎのない看護師としての道へ進むものだと実感しています。

在校生の皆様も、苦しいことが沢山あると思いますが、学生生活を通して吸収したものを自信に繋げることができると思っています。最後に頑張ってください。最後まで頑張りましたが、大学院生活を支えてくださった方々、本当にありがとうございます。(かのまた ひろこ)

実習を 通しての学び



看護の対象となる人々を理解する実習

「看護の対象となる人々を理解する実習」を通して学んだことと感想



看護学部1年 馬目 和枝

私たち看護1年生は5週間にわたって計5回看護の対象となる人々を理解する実習をデイサービスセンターで行ってきました。初めての实習で、最初のうちはあたふたしてしまったり、ぎこちない受け答えになってしまい、会話が思うように続かず、無理やり会話を続けようとしてしまったり…実習を終えた今、思い返すとたくさんありました。しかし回数が増えていくうちに距離感の取り方・自然な会話ができるようになり、利用者の方々との交流を楽しむことが出来ました。

この実習を通して自然なコミュニケーションの取り方や、観察するだけで得られる情報がたくさんあることなど様々なことを学びました。実習が始まる前は5回という時間を長くと感じていましたが、実習が終わりに近づくとどこでもあつという間で、貴重な経験ができたと思います。

(まのめ かづえ)

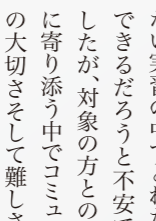


基礎看護学実習Iを終えて

看護学部2年 近藤 香奈

看護2年生の夏、初めての病院実習を行いました。初めての学校外での血圧測定、必ずしも基準値ではないバイタル、測った後にどう対処すればいいのか分からず、数字を覚えただけでは看護はできないことを痛感しました。4日間しかない実習の中でどれだけのことができるだろうと不安でいっぱいでしたが、対象の方との会話や生活に寄り添う中でコミュニケーションの大切さを感じ、その

人のことを知りたいと思うことで、短い時間であつてもたくさん知ることができると分かってきました。現在の自分の出来ることの少なさを感じましたが、患者さんからの「ありがとう」という言葉と笑顔で、ありがたうという言葉を返すことができたことが、看護の道を選んでよかった、これからはたくさん学んで、患者さんを1番に考え、ケアできる看護師になりたい、そう思えた実習でした。(こんどう かな)



地域を理解する実習を終えて

看護学部2年 近藤 佐知子

今回の「地域を理解する実習」において地域の人々の健康に関する考え方やニーズなどを統合して地域全体を捉えることの重要性を理解することができた。特に、地域を理解するための一つのステップである地区把握についてである。地域の活動で活用されるその地域の概況や、歴史、文化などを事前学習で大まかに把握し、地区踏査で自分の感性を用いてその土地を把握する。このプロセスで得られた情報を統合することがその地区を把握

握することになるのだと身をもって感じる事が出来た。また、その地域で起こっている事象にはデータを裏付ける地域の特徴や動向が必ず存在してくる。そうであるからこそ、一つの事象に対して対策を考えるときには、地域の理解の根本に立ち返って文化的・社会的な視点で地域を見つめ直すことが必要になるということを、この実習を通してしっかりと学ぶことが出来たと私は考える。(こんどう さちこ)

今回の「地域を理解する実習」において地域の人々の健康に関する考え方やニーズなどを統合して地域全体を捉えることの重要性を理解することができた。特に、地域を理解するための一つのステップである地区把握についてである。地域の活動で活用されるその地域の概況や、歴史、文化などを事前学習で大まかに把握し、地区踏査で自分の感性を用いてその土地を把握する。このプロセスで得られた情報を統合することがその地区を把握

(こんどう さちこ)



お祝いの言葉

看護学部3年 山谷 沙希

看護学部二五期生のみなさん、卒業おめでとうございます。大学生活はいかがだったでしょうか。勉学に励むのみならず、部活動、年間を通して行われる行事、アルバイトや旅行など、楽しい思い出がたくさんあると思います。みなさんが入学された当時は、前年に起こった東日本大震災により、復興活動が活発に行われている時期でしたね。今年で四年の月日が経ち、現在では徐々に福島は元気を取り戻しつつあります。

本学を卒業後、みなさんはそれぞれの夢に向かい、これからの人生を歩むこととなります。新たに始まる社会人生活では、きつと楽しいことよりも、困難なことに立ち向かう機会が多いと思います。しかし、そんな時こそたくさん悩み抜き、様々な人との関わりを通して成長し、夢に向かって大きく羽ばたいて下さい。新天地でのみなさんのご活躍を在校生一同期待しています。(やまや さき)

在校生から

卒業生へ



卒業おめでとうございます。

大学院看護学研究科1年 四家 智恵

この度大学院を修了された先輩の皆様、ご卒業おめでとうございます。先輩方が仕事の合間に、昼も夜もなく修士論文と向き合っているお姿を拝見するたび、その大変さと同時に、真剣さが伝わってきました。私は、自らが看護専門看護師になりたいと希望し大学院に進学しました。入学以降、先輩方や同期生から多くの刺激を受け、看護学を深めることの難しさを実感しています。自らが選んだ道とはいえ、乗り越えるには相当の努力が必要なのだと思います。

卒業生の皆様のように、目標に真摯に向き合い、ひたむきに挑み続ける強さを身に付けることができるように、私も努力していきたいと思っています。大学院で得ることができた貴重な知識、技術を基に、皆様方の今後の益々のご活躍を期待しております。何かの折に大学にお越しの際は、是非看護学部棟6階まで足をお運びください。皆様の卒業後の活動など聞かせていただけたら嬉しいです。本当にご卒業おめでとうございます。(しけ ともえ)



高齢者への看護学実習を通しての学び

看護学部4年 倉片 聡美

高齢者は身体機能の低下があり、それに伴って転倒、転落が起りやすい、廃用症候群になりやすいなど、成人期に比べて注意して観察する視点が多く、日々の変化の有無を観察する重要さを学んだ。また高齢者は、これまでの長い人生の中で形成された、それぞれの価値観や生活リズムがあり、それらが生活の基盤として存在していることが分かった。

ではなく、対象それぞれの価値観などを尊重し、それらを崩さないよう配慮していく必要がある。そのためにも看護者は、対象やその家族から入院前の話を伺い、対象に必要な看護は何かを日々考えていくことが重要だと学んだ。今後、益々高齢化が進んでいくため、看護師として医療の現場に立つた時に、実習での学びを活かしていきたい。

看護者の一方的な考えや価値観

(くらかた さとみ)



地域における看護学実習で学んだこと

看護学部4年 中澤 光香

私は大玉村保健センターで実習をさせていただきました。それまでは病院での実習が中心で、看護の対象は病院内の患者さんというイメージが自分の中で強く、地域の生活者としての人々への看護というものを深く考える事ができませんでした。しかしこの実習で地域住民の健康を幅広く支える保健センターの保健師の役割や、介護予防、学校保健、母子保健などの様々な取組みを実際に見学しながら学ぶことができて、病院から地域まで看護の視点を広げることができました。今後、病院完結型医療から地域完結型医療へ進む中で、看護師は地域ケアシステムの中で役割を果たせるよう、広く地域の多職種との連携をしていかなければならないと考えさせられました。将来は今回の学びを活かしながら訪問看護師として地域住民の健康と生活に貢献できるように学びを深めていきたいです。(なかざわ みつか)

(なかざわ みつか)



卒業生近況報告



働き始めて感じたこと

保健師 栗城 康

私は4月からいわき市で保健師として働いています。

精神保健業務に携わっており、精神における相談業務・事務処理業務等を行っています。事務処理に関しては実際に働き始めてから学ぶ事柄も多いですが(大学で学んだはずのこともあるかもしれませんが)、それでもやはり業務全般において、大学の講義で学んだであろうことが

基礎として求められていると、今になって感じています。「これ講義でやっておけば」と感じることも多いのですが、働いてからも常に勉強の連続だとは思いますが、学ぶことに集中できるという今の時間を大切に、今後も講義・実習・国試勉強と頑張ってください。

(くりき こう)



心疾患との出会い

看護師 塚田 沙織(旧姓:赤羽)

皆さまこんにちは。4期生として本学を卒業し、附属病院に勤務してから11年目を迎えました。学生の頃は外科系での勤務を希望していた私でしたが、心疾患をもつ患者さまへの看護に出会ったことで、その虜になり、心臓リハビリテーション指導士の資格獲得から始まり、大学院への進学、そして慢性心不全看護認定看護師になったほどです。気づけば新人時代からずっと心臓にかかわる病棟で働いています。心疾患は急性

期から慢性期、維持期まで幅広い看護を必要とし、沢山の知識や技術を学ぶことができます。現在に至るまでの道のりは長いようであつという間でしたが、自分が目指したいと思う道に進むことを、看護部を始め、病棟スタッフの皆さまに応援して頂いたことで、ここまで来られたのだと思います。心疾患に興味のある方、自分の看護を追究したい方、是非一緒に働きましょう!!

(つかだ さおり)

実習を



通しての学び

領域別実習

母性看護実習の学び



看護学部3年 藤本 夏海

私には身近に赤ちゃんがおらず、今回の実習で初めて赤ちゃんに触れ合ったため、最初はどのように接すれば良いのか、緊張というよりは戸惑いの気持ちが大きかったです。しかし、看護師さんや先生方の赤ちゃんに接する姿を参考にすることで、自分なりに接することができるようになりました。また、妊婦さんや褥婦さんに関わる中で、不安に思っていることを話して頂けても自分に知識が足りなかったためうまく答えられない場面がありました。不安に対して曖昧に答えたり、根拠のない励ましをしたりしないようにするために、その不安に答えられるだけの知識をもつことが重要であることを改めて実感しました。周囲の人々から学び、また自分でも学習して、前もって知識を頭の中に入れておくことは、今後の実習にも繋げていきたいと思えます。

(ふじもと なつみ)



健康障害をもつ子どもの看護学実習を通しての学び

看護学部3年 丹野 美和子

私は今まであまり子どもと関わったことがなかったのですが、子どもに対して、どのように関わったらよいのか分からず、戸惑いから始まった実習でした。しかし、どうして泣いているのだろうか? など、子ども達の一つの行動について考えながら接することで「子どもの行動にはそれぞれ理由がある」ということが分かっていきました。すると、子どもの気持ちがわかり始め、子どもとかわかることができたようになっていきました。すると、その子の理解は更に深まっていきました。今回の実習では乳・幼児期、学童期と様々な発達段階の子どもを受け持たせて頂いたことで、それぞれの発達段階や個性に合わせたかわりとは何か、について学ぶことが出来ました。また、子どものご家族も闘病生活において大変な苦勞をされていることが解り、家族も看護の対象であることがわかりました。

(たんの みわこ)



慢性期にある人の看護学実習を通しての学び

看護学部3年 岡部 瑞穂

私はこの実習を通し、患者さんと積極的に関わり、その人の個性にあつた看護を行うことが重要だと学ぶことができました。患者さんと関わるうちに、どのように病気を受け止めているか、入院前の生活や退院後何をしたいかなどを話してくれました。これらの話から何が問題の原因となつているのかを見極め、援助につなげることができると感じました。グループ内で同じような看護問題が挙が

(おかべ みずほ)



急性期にある人の看護学実習での学び

看護学部3年 高橋 奈緒

急性期における看護学実習では、周手術期の患者さんの入院から退院までの経過を見ることで、周手術看護と退院調整の実際に触れ、急性期看護への学びを深めることができた。急性期では身体機能と生理的変化が著しく、回復や増悪が急激であり、術後の回復過程に個性があるといった特徴がある。故に、患者さんが順調に回復過程を辿れているか、日々の経過を評価することでその人に合った援助

(たかはし なお)



精神の健康障害をもつ人への看護学実習での学び

看護学部3年 五十嵐 郁美

私はこの実習を通してコミュニケーションのあり方とその重要性について学ぶことができた。私は今まで会話だけがその方法であると考えており、さらにそれを情報収集手段としか考えていなかった。しかし、対象に合った看護計画を立てる上で重要な情報である対象の思いや考えは信頼関係がなければ知ることができない。精神疾患を持つ対象であればなおさらである。そのためにはコミュニケーションが重要であり、それには挨拶、声かけ、

(いがらし いくみ)

解剖慰霊祭が開催されました

平成27年10月28日に、第66回解剖慰霊祭が、県知事、県議会議員、ご遺族、志らぎく会会員、教職員、学生諸君の出席のもと、荘厳な雰囲気の中で執り行われました。関係者各位から感謝の言葉や慰霊の言葉を頂いた後、看護学部一年次生を含む参加者全員が白菊の花を捧げ、式が終了しました。来春解剖実習を迎える一年次生たちも、気持ちを引き締めて看護師となる覚悟を確認している様子でした。



献花を行う看護学部同窓会長 鈴木 幸恵氏



「看護学生のための地域基幹病院見学セミナー」が実施されました。

児島看護部長を囲んでの記念撮影

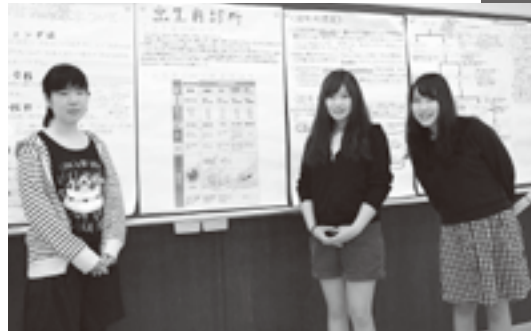
看護学部生を対象に、福島県内の地域医療を担う基幹病院の見学会が実施されました。この企画は、これから看護実践を学ぶ低学年の学部生に、病院における実際の看護業務を見学させることで学習への意欲と関心を高めることとともに、地域医療の重要性を認識させることを目的に立案されました。第1回目の見学セミナーは、会津医療センター附属病院の児島由利江副院長兼看護部長および看護部の皆様の全面的な協力を得て9月14、15日に行われ、第1学年及び2学年の学生7名が参加しました。見学を終えた学部生達は、現場の緊張を肌で感じて看護への情熱を更に高めたようです。学部では、このような見学会を会津地方だけでなく、磐城・相双地区においても実施したいと考えています。

看護学学生部長 本多 たかし

テーマ
「高齢出産」



看護学部2年 佐藤 晴香



女性の社会進出や晩婚化が話題になる今日、私たちは「高齢出産」をテーマに掲げ学びを深めました。その中でも特に「不妊治療」「出生前診断」「代理母出産」に焦点を当て、自分たちで調べたり先生方や臨床現場で働いている方からお話を聴き、意見交換をしました。医療の現場ではどんなことを行っているのか、看護師は対象者にどう寄り添っていくことができるのかを学び、そして生命の尊さを考えることができました。

今回学びを発表するにあたり、情報や学びをまとめるだけでなく生命について広くみなさまにも考えてもらいたいという思いで掲示物を作成しました。当日は多くの方にご覧いただき、地域の方々の貴重なお話しご意見もいただけて大変嬉しかったです。今後、部門活動を通して得たものを生かし、これからの学びそしてよりよい看護につなげていきたいです。

(さとう はるか)

看護学部研究交流会

家族看護学部門 鈴木 学爾



12月22日(火)に看護学部学術検討小委員会主催による看護学部研究交流会が開催されました。この研究交流会は2013年より毎年開催されており、今年の研究交流会では、他の教員の研究に耳を傾けることにより、教職員及び大学院生の新たな刺激となることを目的に2件の研究活動の発表と意見交換が行われました。

まず、1件目は家族看護学部門精神看護学領域の佐藤利憲講師による「子どものメンタルヘルスに関する支援-研究活動について」というタイトルで、子どものグリーフサポートの普及・啓発活動とペアレント・トレーニングの研究活動についての発表がありました。

続いて2件目は地域・在宅看護学部門の古戸順子講師による「田舎高齢者の日常生活活動と健康関連QOL」初回調査時と追跡調査の結果から」というタイトルで2007年から2014年までの県内在宅高齢者を対象とした調査結果の発表が行われました。

それぞれの発表後の質疑応答では、多くの質問や意見交換が行われ予定時間を超過するほどでした。今回の研究交流会が、看護学部教職員及び大学院生の刺激となったものと思われまます。

(すずき がくじ)

看護学部カレンダー

3月24日(木)

学位授与式

4月6日(水)

入学式

4月6日(水)~7日(木)

在校生オリエンテーション

4月27日(水)

就職ガイダンス(4年次生)

6月18日(土)

開学記念日

7月3日(日)

オープンキャンパス(予定)

10月15日(土)

光が丘祭(予定)



古戸 順子 講師



佐藤 利憲 講師

編集後記

平成10年の看護学部開設当時に発行された本誌、「看護学部二ユースレター」光と緑の風通信」も記念すべき第50号を迎えることができました。この二ユースレターを振り返っても看護学部の歴史が積み重なっていることを実感します。

この3月には15期生が卒業し県内各地、そして全国へ飛び立ちます。これで1期生から15期生まで1200人以上卒業生を送り出すこととなります。

私は実習指導や研修会などで卒業生と関わる機会があります。私が看護学部に着任した6年前に比べ卒業生が本学学生の実習指導に関わる姿やそれぞれの職場で中堅として活躍する卒業生の姿は確実に増えています。まさに看護学部の歴史とともに卒業生の活躍の増加を実感しています。

「光と緑の風通信第100号」が発行される将来、看護学部はどのような活躍をしていることでしょうか?両者の輝かしい未来のために、ますます教育・研究・地域貢献に動んでいきたいと強く思いました。

編集委員

編集委員長 鈴木 学爾

本多たかし、大崎 瑞恵、安藤 真美、齋藤 史子、鈴木 妙子、田村 達弥、宮崎 恵美、有賀 優加、岡本なつみ、菅野富美子、齋藤 喜美、鈴木 良香、山崎久美子、鈴木 学爾